



楠クロフネカンパニー代表

中村 文昭

僕は何の夢もなく、やりたいこともないまま高校を卒業して上京しました。兄貴のアルバイトに転がり込んでアルバイトをやっていました。

ある日、焼き鳥屋でたまたま隣に座った田端さんという人とおしゃべりをしてるうちに、僕は人生が変わったのです。僕が18歳、田端さんが26歳の時でした。

田端さんがこう聞いてきたんです。「あんたは何のために東京に出てきたんか?」

この質問に答えられず黙っていたら、「じゃあ、何も考えんで出てきたっちゆうことやね」と言われました。「じゃあ、あんたは何のために仕事しとんか?」とまた聞かれました。

「メシ食うていかなあかんやないですか。お金になる仕事をせな始まりませんわ」と言いませした。そして、「あんた、若いくせに、やたら言葉の端々にお金お金って言葉が出るね。あんた、

カネは「入り口」じゃない、「出口」が大事なんだ!

◇1◇

もしこの東京でチャンスを手掴みでお金をいっぱい稼げるようになったら一体何に使うんだ?」と聞くんです。

「そりゃ欲しい物を買いますわ。服とか腕時計とかバックとか」と僕が言うと、「あんた、話が小さいね。そんなものすぐ買えるぐらいいのすこい金があるんだよ。もしもの話だけ。だからもっとデカイこと言えよ」と言っつんです。

「だったら車を買いますわ。それからマンションも買います」と言うと、「まだ金はあるぞ。次は?」と言う。「じゃあ、外国に行きます」と言うたら、「じゃあ、豪華客船に乗って行って来い。金は使いたい放題にあるんだ。次は?」

もうこの人と話してもちがいが開かんと思ったので、「もういいですわ」と言って会話を切りました。

そして、「あんたね、自分で喋って気付かんか? あんたの口から出てくる金の使い道はね、物しかないんだよ。お洒落して人からカツコイって言われてお

前は幸せか? ブランドもののバック持って、みんなからうらやましがられて優越感に浸るなんてくだらんと思わないか? お前は何のために働くんだ?

みんな、お金を如何に儲けようか、如何に稼ごうか、その『入り口』のことばかり考えている。だけど本当に大切なのは、何のためにお金を使うか、そういう『出口』なんだよ。金に頭を支配されてるようじゃ、物事を損得でしか考えられなくなってしまうぞ。」

面食らいました。当時は1987年、バブル経済の真只中、日本全体が浮かれまくってる時でした。

田端さんの仕事は軽トラに野菜を積んで売りに行くという、いわゆる行商でした。

「俺の今やってる仕事は、社会的地位は低かぞ。人様からしょっちゅう馬鹿にされてる。けどね、何のために生きてるのかという座標軸に関しては、俺はそこらのはやつには絶対負けんから」と言っつんです。そして、「これから俺はね...」と夢を語り始めました。僕はワクワクしながらその話を聞きました。そして、その夜、僕は田端さんに弟子入りしたのです。

(昨年、高鍋西都法人会が主催した講演会にて)